

宮崎市立生目台中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は宮崎市西部の振興住宅地の中に位置し、本年度で開校14年目を迎える公立学校である。男子246名、女子266名、計512名の生徒が在籍している。生徒は明るく素直であり、生徒会を中心に積極的に学校行事に参加し、またほとんどの生徒が部活動に加入し、意欲をもって取り組んでいる。本校では、平成14・15年度の2年間、中学校生徒指導研究指定校の指定を受け、学習指導、生徒活動、地域・小学校との連携の四つの領域で総合的な生徒指導の在り方の研究を行い、一定の成果を得ることができた。今年度は、「チャレンジ精神で好ましい校風を築く知性ある生徒」という学校の教育目標のもと、一人一人がチャレンジ精神をもって学習に取り組めるよう支援している。

2 生徒の実態

生徒たちは、全体的に落ち着いて授業に取り組み、成績は市内でも比較的高いレベルに位置する。しかしながら、基本的な学習習慣や自ら主体的な学びを追求する姿勢、あるいは自己表現力においては、まだ十分身に付いているとは言えない状況である。

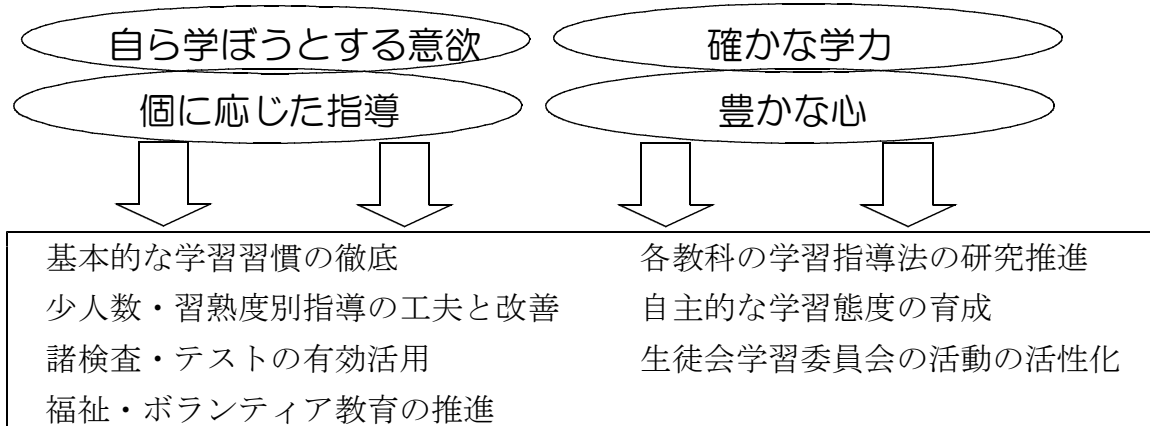
5月に実施された学習到達度調査を分析した結果、情報収集能力や問題解決能力及び、学習スキルに関しては強みになっている一方、学習動機や自己効力感が弱みになっていることがわかった。計画的に学習することの指導は、家庭でもよくなされているので、今後「学校での学習が社会に出て役に立つこと」や「最後まで粘り強く取り組むこと」についての指導を強化することで、学習効果が上がることが期待される。

3 学力向上に向けた経営方針

上記のような生徒の実態を受け、本校では、学力向上対策として次のような目標を立てた。

- 自ら学ぼうとする意欲を持ち、積極的に学習する生徒の育成を図る。
- 生徒の能力・特性を的確に把握し、一人一人の生徒に確かな学力を身に付けさせる。
- 個に応じた指導法を研究し、授業の資質向上を図る。

図1 平成17年度の学習指導部の4つの柱と7つの重点取り組み事項



また、今年度は、校内の研究主題及び副題を「豊かな心を持ち、チャレンジ精神に満ちた生徒の育成 ～『確かな学力』の定着を図るために～」に設定し、学校全体で学力向上について考え、実践する体制づくりを行っている。

4 教育課程内の取組

(1) 数学科・英語科における習熟度別少人数指導の充実

担当指導者会を定期的の実施し、各コースの指導状況の確認と指導方法の工夫改善にあたって

(2) 「確かな学力」定着のための各教科における取組

① 各教科における「確かな学力」の明確化 表1 英語科における「確かな学力」の分析

生徒の現状と実態を受け、「確かな学力」を「基礎学力」「学ぶ意欲」「思考力」「判断力」「表現力」と定義した。これに沿って、各教科において「各教科における確かな学力」を明確化し、学力向上に向けた授業実践に努めている。

② 全教科における到達目標・評価の観点の設定

到達目標の見直しと評価の観点の見直しを毎年行い、参観日に保護者への説明を行っている。

③ 指導と評価の一体化を図った学力向上への取組

各教科の年間評価計画及び評価の方法の検討を毎年行っている。学習指導案においても単元計画で評価計画を作成するようにしている。その中に「努力を要する」状況にある生徒の手立てについて述べ、授業の中で個に応じたきめ細かな指導が展開できるよう配慮している。

本校における「確かな学力」			
○基礎学力 ○学ぶ意欲 ○思考力 ○判断力 ○表現力			
(英語科)における「確かな学力」			
	1年	2年	3年
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる単語を読めて書いて使うことができる力 文型を正しく理解し、運用する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる単語を読めて書いて使うことができる力 文型を正しく理解し、運用する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に出てくる単語を読めて書いて使うことができる力 文型を正しく理解し運用する能力 まとまった文章を読んだり聞いたりして内容を理解する能力
学ぶ意欲	<ul style="list-style-type: none"> わからないところを自ら調べたり積極的に質問する態度 ペアワークやグループワークで協力しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 授業中積極的に発話・発表をしようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> わからないところを自ら調べたり積極的に質問する態度 ペアワークやグループワークで協力しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 授業中積極的に発話・発表をしようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> わからないところを自ら調べたり積極的に質問する態度 ペアワークやグループワークで協力しながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度 授業中積極的に発話・発表をしようとする態度
思考力	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に合った適切な表現を自ら考える能力 相手の話をさらに詳しく知るために質問する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に合った適切な表現を自ら考える能力 相手の話をさらに詳しく知るために質問する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に合った適切な表現を自ら考える能力 相手の話をさらに詳しく知るために質問する能力
判断力	<ul style="list-style-type: none"> 対話や文章中の知らない語句の意味を文脈から推測することができる能力 多様なものの見方や考え方を理解する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 対話や文章中の知らない語句の意味を文脈から推測することができる能力 多様なものの見方や考え方を理解する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 対話や文章中の知らない語句の意味を文脈から推測することができる能力 多様なものの見方や考え方を理解する能力
表現力	<ul style="list-style-type: none"> 自分自身や身近な人について説明したり質問することができる能力 基本的な英語の音声の特徴を捉え正しく発音する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 過去のできごとやこれからの予定について説明したり質問することができる能力 基本的な英語の音声の特徴を捉え正しく発音する能力 	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況を修飾の用法を用いてより詳しく説明したり質問したりする能力 基本的な英語の音声の特徴をとらえ、自分の意向を正しく伝えることができる能力
(英語科)目標	既習事項を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、相手の意向を正しく理解し、自分の伝えたいことを適切に表現する能力を育成する。		

写真1 校内研究授業の様子



表2 理科における三者面談用評価資料

第1学年 理科 評価票

年 組		番 氏名		
【1学期前半の授業評定】				
評価項目	関心・意欲・態度	技能・表現	科学的な思考	知識・理解
評定				
※ 中間テストの結果や授業中の様子を考慮して、1学期前半の理科における評定をA・B・Cの3段階で表しています。				
※満足できると判断されるもの・・・A				
おむね満足できると判断されるもの・・・B				
努力を要すると判断されるもの・・・C				
授業中の発表や忘れ物について				
①授業中は進んで手を挙げるようにしましたか。(A・B・C)				
②宿題や教科書等の忘れ物はありませんでしたか。(A・B・C)				
【自己評価】 できた・・・○ できなかった・・・×				
No.	項 目	自己評価		
1	授業中はしっかりと先生の話を聞いた。(私語をしない、きちんとした姿勢)			
2	発表を積極的にすることができた。			
3	友達の発表をしっかりと聞くことができた。			
4	実験は、自ら進んで意欲的に取り組めた。			
5	実験は、グループで協力して取り組めた。			
6	実験は、予想を立てながら(疑問を持ちながら)取り組めた。			
7	実験後は、最後まできちんと片付けをすることができた。			
8	ノートをきちんと丁寧にまとめることができた。			
9	小テスト等には真剣に取り組めた。			
10	分からない所は友達や先生に質問できた。(そのままにしておかない)			
11	宿題や提出物のプリント等は、忘れずにやることができた。			
12	宿題や教科書などの忘れ物はなかったか。			

☆今後、あなたが理科学習において、もっと充実させるために、No. () に気を付けて取り組むといいでしょう。頑張ってください。

(3) 全職員による研究授業の実施

今年度は、全ての教師が研究授業を実施するようになっており、10月現在12名が行った。教科の枠を超えて授業参観をしており、学力向上について各教科で情報交換できる機会となっている。

(4) 各種テストの有効利用

標準学力テストやCRTテスト等の各種テストを教科ごとに分析し、学力向上に向けての対策を立てるようにしている。

(5) 小・中・高連携による学力向上への取組

中高連携推進事業の取組として、本年度は中学3年生の選択理科の授業を通して、物理分野において宮崎工業高校と連携を図ることにしている。また、夏季休業中の職員研修として、生目台東小・生目台西小との三校合同研修会を実施し、生徒の実態について情報交換したり学習指導法についての研修を深めている。

5 教育課程外の取組

(1) 朝の読書と学力強化週間(毎月1回)

本校の1, 2年生において、読解力の育成と読書の習慣化を図るため、朝の15分間を読書の時間に充てている。ただし、月に1回の学力強化週間を設け、毎月1週間、国語(漢字)・英語(単語)・数学(計算)のドリルを交代で計画的・集中的に行い学力向上を図っている。3年生については、入試対策として5教科のセミナーを行っているが、年に2回の読書月間を設けている。

(2) 授業への取り組み5ヶ条の定着

一人一人が気を引き締め、積極的な学習参加ができる雰囲気をつくるため、授業に取り組む心構えを各教科で指導している。

「授業への取り組み」	
(1)	授業はじまり1分前に着席し、チャイムと同時に黙想する。はじめのあいさつは大きい声で行い、また礼をしっかりする。
(2)	背すじを伸ばし、集中して真剣に取り組む。
(3)	間違いを恐れず、進んで発表や質問をする。
(4)	説明や意見をよく聞く。
(5)	終わりのあいさつと礼をしっかりする。

(3) 学習集会と学習指導週間

効果的な学習が展開されるよう、全校生徒を対象とした学習集会、及び毎月の学習指導週間を通して指導・助言を行っている。

(4) サマースクール

夏休みに5教科の補充学習を行った。今年度は、基礎コースと自学自習コースの2つのコースを設定し、きめ細かな指導ができるようにした。

(5) 部活動勉強会

「部活動という学年の枠を取り除いた環境の中で、上級生が下級生に教えたり、同級生同士で教え合ったりすることでそれぞれの学習への意欲を喚起させ、また、勉強会を通して学年間のつながりや相互理解を勧めさせる」ことを目的に、定期テスト前3日間、部活動ごとに集まってテスト範囲を学習する、部活動勉強会を年間4回実施している。

写真2 部活動勉強会の様子



(6) 各種資格試験の受験奨励

英語検定や漢字検定等の受験の積極的な奨励を行い、資格取得者の賞賛と意欲付けを図っている。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 家庭学習の工夫

授業とリンクさせた課題の与え方、家庭との連携の在り方等についての検討を行った。

(2) 通信の発行

学級通信・学年通信を発行している以外に、学校長が毎週校長便りを発行し、学校内外における生徒の学習や生活の様子を家庭に発信している。

(3) 参観日での説明

本校の保護者は、学校教育への関心が高く、協力的である。参観日の出席率も高いことから、10月の参観日では全学級で懇談会のテーマとして、「家庭学習の在り方について」を取り上げ、連携を図った。

(4) 地域社会との連携

保護者をはじめ、学校評議員や民生児童委員、青少年指導委員の方々に学校評価をお願いし、その結果や改善に向けた今後の取組について公表し、より一層の学校理解と連携を深めている。

7 成果と課題

今年度は、本校の教育的課題の1つとして、基礎・基本の定着と学力の向上を挙げている。本年度は、各教科において、学年の発達段階に応じた「確かな学力」を明確化し、日々の授業に生かすことができた。また、評価と指導の一体化の考えをさらに進め学習指導過程を工夫し、また全職員が研究授業をするなど、実践を通じた指導方法の工夫改善に努めた。さらに、朝の読書や学力強化週間、サマースクール、部活動勉強会など、教育課程外での取組も工夫し、授業内外で総合的に学力が身に付いて行くよう配慮した。その結果、様々な場面で努力を要する生徒を学習に向かわせる手立てを講じることができた。

今後は、支援を必要とする生徒をより一層サポートするとともに、個人個人の学習動機を高めるための教育課程内外における指導の工夫についても考えていきたい。